

認知症 と共に歩む市民講座「第1回」

参加
無料

なぜ「排泄」のケアは大変なのか？

認知症の人の排泄の問題

Content

- 01 排尿のメカニズム
- 02 認知症の人の排泄ケアのポイント

日時

2024年10月12日(土)
10:00～11:30

参加者

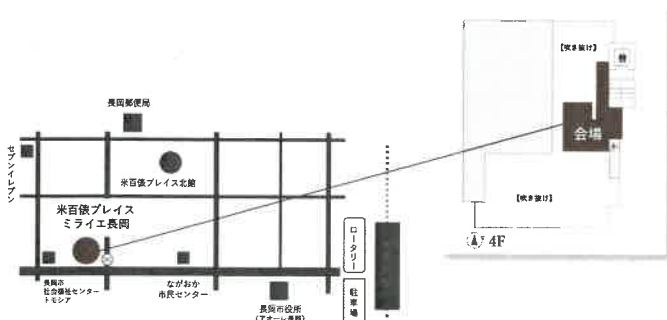
認知症に興味がある方ならどなたでも

申込み

当日までに電話または下記のメールまで
☎ 0258-39-7374 医療・福祉よろず相談

会場

米百俵プレースミライエ長岡
長岡市大手大通2丁目3番地10
4F 「ミライエステップ」



01 講師

森 啓氏



長岡崇徳大学／特任教授
専門分野：脳神経科学、認知症医学

“おしっこは生きている証” 認知症になる人の多くは高齢者で、排尿のトラブルは加齢と共に増加していきます。おしっこは何も飲まなくても作られ、老廃物を排泄することで、身体を正常で健康な状態にしてくれています。本講座では排尿トラブルへの対応と、排尿のメカニズムについて学びます。

02 講師

山口 勇司氏



地域総合サービスセンター／副センター長
家庭の排泄ケア相談所／事務局長
資格：臨床検査技師

認知症の人の排泄ケアは、介助する人だけが頑張っても上手くいきません。認知症の種類や特徴を知り、羞恥心への理解や、本人の力を生かすことで効果的介入が可能となります。本講座では、具体的な排泄ケアのメソッドについて学びます。

年間の講座予定はこちらから →



抄録：認知症の排泄ケアを通してシニアの叡智を次世代に！

社会医療法人 崇徳会 地域総合サービスセンター

副センター長 山口勇司

【はじめに】

私は今年の片貝祭りで初孫誕生と古希満願の祝いとして奉納花火を打ち上げました「山口勇司」と申します。現在、地域総合サービスセンターにて介護、障害支援、保育事業などの統括を務めています。本講演では、認知症の排泄ケアの重要性とその改善に関する提言についてお話しします。

【排泄ケアとの出会い】

私の排泄ケアとの出会いは、京都のむつき庵での学びと排泄ケア総合研究所（排総研）で教本の執筆を行ったことが始まりです。その後、令和4年には家庭の排泄ケア相談所を開所し、研修を通じて排泄ケア相談員の育成を行ってきました。

【排泄ケアの普及とトレビア】

排泄ケアの普及には、ホームページや排尿日誌、工程分析チェックシートなどの参考資料が役立っています。また、排泄に関する語源や「食育と卍育」など、排泄に関する興味深い知識も提供します。例えば、排便は身体の状態を示す重要なサインであり、日常生活での排泄行動がどれだけ大切かを知ることができます。

【障害の捉え方と排泄障害の工程分析】

障害を捉える視点は、国際生活機能分類（ICF）を通じて大きく変わりました。排泄障害の工程は、尿意・便意の認識からトイレの利用、後処理まで多岐にわたります。この工程を適切に管理することが、排泄ケアの質を向上させる鍵となります。

【認知症の排泄ケア】

認知症患者の排泄ケアには、各タイプに応じた対応が必要です。アルツハイマー型や脳血管性認知症、レビー小体型、前頭側頭型など、それぞれの特性を理解し、個別に対応することで、患者とその家族にとっての負担を軽減できます。また、弄便（ろうべん）などの行動に対する適切な理解と対処も重要です。

【排泄ケアの質向上のための方策】

排泄ケアの質を向上させるためには、根拠に基づいた知識と技術の習得が不可欠です。また、個別アセスメントによる個別ケアプランの作成、多職種連携と情報共有、そして継続的な改善を行うPDCAサイクルの実践が求められます。

【私の提言】

これまでの排泄ケアは、介護者の視点からしか語られてこなかった部分があります。私は、介護を受ける側の視点を取り入れた改善策を提言します。また、人生100年時代を迎える中で、誰もが「ピンピン・コロリ」を目指していますが、その実現は一部の人に限られ、多くはヨロヨロからドタリへと移行しています。さらに、認知症予備軍であるとの自覚も必要です。この現実を受け止め、準備が必要です。

最後に、シニアの叡智を次世代に伝えるために、排泄ケアの重要性を広く社会に訴えることが、持続可能な社会を実現する第一歩となることを強調したいと思います。